福岡県ベンチャービジネス支援協議会

ベトナムにおける現地情報

2022 年 10 月 12 日

ASIA GATE VIETNAM CO., LTD.
豊田英司

【コロナ及び渡航関連ニュース】

（マスク着用義務が原則廃止されました）

日本の方からよく聞かれる質問に

「ベトナムでは、まだみんなマスクはつけているのですか？」

というものがあります。

公式にいうと 9 月 6 日にベトナム保健省がガイダンスを発表し、これまで公共の場では必須とされていたマスク着用について、医療施設や公共交通機関以外では「原則、不要」となりました。

ただ、ベトナムの都市部ではコロナ以前から排気ガスなどの影響を避けるために普段からマスクをつけている人は多く、コロナが収まってもマスクをつけている光景をよく見かけます。

ですので、一見すると、「ベトナムはまだマスクをつけている人が多いな」という印象を受けるかもしれません。

（日本へ働きに行くベトナム人が急増しコロナ前の水準を回復しています）

コロナ禍で日本へ働きに行く技能実習生などが 2 年間停滞していましたが、今年の春以降、一気に回復しています。

ベトナム海外労働管理局によると、今年 1 ～ 9 月の海外への労働者派遣数は前年同期比で 2.4 倍となる 10 万 3,026 人（うち女性 3 万 7,299 人）と急増し、本年度の通年目標である 9 万人をすでに超えるペースであると発表しました。

新型コロナウイルスが流行する前の 2019 年の 1～9 月期が 10 万 4615 人でしたので、それに肉薄する勢いとなり、完全にコロナ前の水準に戻ったと言えます。

国・地域別の受け入れ先と人数では日本が半数を占める5万 1,859 人でトップ、以下、台湾（4万 4,584 人）、韓国（1,668 人）、シンガポール（ 1,498 人）、中国（643 人）と続きます。
この数字を見ると、「海外へ行くベトナム人労働者」の市場においていかに日本が重要なプレイヤーかが分かりますね。

【経済関連ニュース】

（ベトナムの経済が急回復しています）

ベトナムのコロナ後の経済回復が順調であることが各種の調査でレポートされています。
国営ベトナム通信シンガポール UOB 銀行はベトナムの 2022 年国内総生産(GDP)の伸び率見通しについて、従来の 7%から 8.2%と大きく上方修正した数字を発表しました。
上方修正の要因としては第 3 四半期にベトナムの経済が予想以上の回復をみせ、前年同期比 13.7%という驚異的な伸びを記録したことが大きいと思われます。
いくら、前年の第 3 四半期が社会的距離(ソーシャルディスタンス)規制導入を余儀なくされ前年同期比マイナス 6%だったとは言え、10%を越える経済回復は素晴らしいと思います。

ただ、一方で、来年 2023 年の経済見通しとしては主要な輸出先である欧米諸国での金融引き締め政策などが影響して、ベトナムの GDP 伸び率は 6.6%に鈍化するとされていますが、それでもかなりの経済成長と言えます。

（消費者物価指数が予想以上に上がりました）

【ポイント】
・2022 年 9 月のベトナムの消費者物価指数（CPI）は高い水準で推移

・「年内４％以内」は政府目標であり、ベトナムの庶民感覚での「物価高騰か否か」の目安

・来年の賃金交渉、また政府の最低賃金改定などの動きとも連動してきますので注視する必要があります

【詳細】

ベトナム総統計局（GSO）が９月 29 日に発表したベトナムの消費者物価指数（CPI）データは以下の通りです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝
今年第３四半期（7 月ー9 月）の前年同期比：3.32％上昇
今年９月の前年同期比：3.94％上昇
今年９月と昨年 12 月の比較：4.01％上昇
＝＝＝＝＝＝＝＝＝

国内燃料価格が前年同期比で平均 21.77％上昇し、全体の指数を 0.78 ポイント上昇させているとのことです。
ここ数ヶ月、石油価格は政府の介入もあり落ち着きを見せていますが、残り３ヶ月で「年内４％」の政府目標を維持できるかが注目されています。

と、言いますのも、ここ数年、ベトナム政府は常に年度インフレ目標を「4％以内」とし、これを堅持できています。
ですので、もしこの４％を超えるインフレとなると一般庶民感情としては「物価高騰」という世論となり、当然、賃金交渉とリンクしてきますので、この数字はその点においてベトナムでの人事労務を考える上で非常に重要なものとなっています。

以上